

## 関連学会印象記

# 日本小児麻酔学会第11回大会印象記および 第12回大会の予告

大 下 修 造\*

日本小児麻酔学会第11回大会は、静岡県立こども病院 第2診療部長 麻酔科医長、堀本 洋会長のもと、9月9日(金)、10日(土)の2日間にわたり、静岡コンベンションアーツセンター(グランシップ)で開催された。静岡グランシップは、静岡市内から少し外れた東静岡駅の近くにあり、最近建てられたのか、非常に新しくてきれいな会場であった。

9月といえば台風シーズンであるが、ちょうど台風が過ぎ去った直後であり、天気にも恵まれた。ただし、われわれは前日(8日)に徳島から出かけたため、JRのダイヤにまだ影響が残っており、一緒に静岡に行くはずの一人は、新神戸駅行きのバスが発車する数分前に徳島駅に到着し、心配した。

講演(口演)会場は4会場あり、さらにポスター展示・医療機器展示会場として広い会場が1会場準備されていた。一般演題72題、出席者はおよそ250名ということであった。第1会場では、岩井誠三記念講演(小児における安全な脊髄くも膜下麻酔)、特別講演(心臓手術におけるSIRS-メディエーター療法)、シンポジウム(小児における $\alpha$ アゴニスト)、パネルシンポジウム(新生児期緊急疾患)、ミニレクチャー(小児における麻薬の投与経路)、教育講演(体温管理、小児集中治療、先天性心疾患の外科治療、こわくない痛くない手術・検査、緩和医療)、さらにランチョンセミナー(小児におけるデクスメトミジン、小児麻酔におけるTIVA)、と非常に内容の豊富なプログラムであった。さらに第4会場では、市民公開講座(こどもの麻酔って?)も予定されていた。帰りの新幹線の都合で市

民公開講座を聴くことはできなかったが、われわれが帰り支度をしている頃、子供ずれの親が大勢会場におられたので、おそらく盛会であったと思われる。私はランチョンセミナー(小児麻酔におけるTIVA)の司会を担当させて頂いた。講演の内容は、来年秋頃、ヤンセンファーマ(株)から市販される予定のレミフェンタニルを使用した小児麻酔におけるTIVAに関するものであったが、どのようにして輸液ルートを確保するのか疑問に思ったため、打ち合わせの時に、演者であるスタンフォード大学 Hammer 教授に質問したところ、ニヤツと笑って、亜酸化窒素単独か亜酸化窒素/セボフルランによる全身麻酔下に確保しますとのことであった。それではTIVAと言えないのでは思ったが、あえて指摘はしなかった。

今回の堀本会長の試みとして興味深かったのは、全ての演題でポスターを展示はするものの、ポスター展示会場では発表せず、第2、第3会場で口頭で発表する、いわゆるポスターディスカッションの形式をとられたことではないかと思われる。ただ、残念だったのは、第2、第3会場が狭く、多くの聴衆が立って発表を聞いていた点である。なかなか、こちらが要求するような会場はないものだと痛感させられた。いいわけになるが、私も医局員の発表を聴きに行ったものの、会場の外にまで聴衆があふれていたため発表を聴くのをあきらめ、早々に静岡駅前のホテルに帰り、夕方には一人ゆったりとホテルのレストランで食事をとった。ゆったりと食事をとっていたところ、私の携帯に連絡が入り「堀本先生と宮坂先生が先生を捜されていますよ!」という悲鳴に近い声が聞こえてきた。次期会長として会員懇親会で挨拶をしなくて

\*徳島大学医学部麻酔科

はいけなかったらしい。立って食べることが嫌いな私は、多くの学会で会員懇親会には出席しないことにしているが、今回は次期会長として出席すべきであった。翌日、堀本先生には非礼をお詫びした。

もう一点、堀本先生の学会運営で参考になったのは、海外から招請された演者のうち2名はランチョンセミナーで発表されていた点である。すなわち、製薬会社がスポンサーとなって海外から演者を招請されたということになる。大きな学会を主催された某先生に伺うと、出席者が200名~300名の学会が最も運営費用を集めにくいということである。そういった観点からすると、堀本先生の学会運営方法は、来年主催するわれわれにとって非常に参考となった。

いずれにしても、日本小児麻酔学会第11回大会は、一般病院、それも多忙きわまりない小児病院の麻酔科が主催されて、ここまで内容の豊富な学会を準備し、運営できるのかと感心させられた立派な学会であった。来年も第11回大会に負けないような内容の学会にしなくては肝に銘じて新幹線に乗った。新神戸-静岡間の新幹線はグリーン車を準備して頂いたが、とくに帰りの新幹線では、車中で舞妓さんに会うわ、映画の井筒監督に会うわで、新幹線のグリーン車にはまりそうである。

最後に、来年、徳島市で開催する日本小児麻酔学会第12回大会の予告をさせて頂きたい。まだ骨格が出来上がったばかりで、これから屋根を葺き、壁を塗っていかなくてはならない段階ではあるが、ほぼまとまりつつある内容を紹介しますと、

会期は、2006年9月8日(金)、9日(土)

場所は、JR徳島駅に直結した

ホテルクレメント徳島

内容としてまとまりつつあるのは、

#### 1. 特別講演

「胎児救急」

聖隷浜松病院副院長(麻酔科) 小久保荘太郎先生

#### 2. シンポジウム

「小児麻酔における輸血拒否(仮)」

座長 前川信博先生(香川大学医学部)

栗屋 剛先生(岡山大学医学部)

#### 3. ランチョンセミナー

「小児麻酔におけるレミフェンタニル(仮)」

米国より演者を招請 ヤンセンファーマ(株)共催

4. 会員懇親会は、小久保荘太郎先生および当教室技官の西野幸子さんを世話人とし、「徳島阿波踊りワークショップ」と題して8日(金)に予定している。事前登録で希望された先生方には「ますい連」の浴衣をお貸しし、有名連と一緒に踊り狂おうと考えている。もちろん見るだけの参加も大いに歓迎したい。

日本小児麻酔学会第12回大会の目玉は、シンポジウム「小児麻酔における輸血拒否(仮)」と考えている。とくに何らかの結論を引き出して頂くつもりもないし、エホバの信者を徹底的に批判するのも目的ではない。判断能力のない小児の輸血を親が拒否することの、社会的、法律的、倫理的問題について、各方面の専門の先生方に加え、麻酔科医、医師でいてなおかつエホバの信者でもある先生にも参加して頂き、各問題点について討論して頂けたらと考えている。まだ全ての演者の確約がとれていないので、この企画はポシャってしまうかもしれないが、現在、前川先生と栗屋先生のご尽力により準備を進めて頂いている。

小児麻酔学会の会員以外の先生方にも多数参加して頂きますようお願いし、日本小児麻酔学会第11回大会印象記および第12回大会の予告を終わらせて頂く。